

経営方針

「身近で親しまれるJA」

当JAは、「組合員・地域住民との関係強化」、「地域農業の振興」、「経営基盤の強化」を基本方針に中期計画を策定し、組合員及び地域の皆さまから「身近で親しまれるJA」として、一層の信頼を得られるよう取り組んでいます。

基本方針

1. 「組合員・地域住民との関係強化」

「ふれあい訪問活動」を充実強化し、利用者のニーズにお応えするとともに、「地域の活性化」に取り組めます。

特に、准組合員を「農業や地域経済の発展を農業者と共に支えるパートナー」とし、関係強化を図ります。

2. 「地域農業の振興」

「農業者の所得増大」「農生産の拡大」を図るため、新たな「地域農業ビジョン」に取り組めます。

3. 「経営基盤の強化」

事業・組織の改革や内部留保による自己資本の充実に努め、経営の健全性確保のため、内部管理態勢の強化を図ります。

地域貢献に関する取組み

当JAは、福山市、府中市、神石高原町を事業区域として、農業者や地域住民の方々が組合員となって、相互扶助を共通の理念として運営する協同組織であり、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、地域農業の振興と環境・文化・福祉への貢献活動を通じて、安心して暮らせる明るい社会づくりに努めています。

地域からの資金調達の状況

貯金・定期積金残高

(単位：百万円)

項目	平成 29 年 3 月末	平成 29 年 9 月末
当座性貯金	189,793	195,296
定期性貯金	509,591	527,337
定期積金	28,579	26,776
合計	727,964	749,410

地域への資金供給の状況

貸出金残高

(単位：百万円)

項目	平成 29 年 3 月末	平成 29 年 9 月末
組合員	130,866	132,668
地方公共団体等	2,633	2,568
その他	3,747	3,845
合計	137,247	139,082

□農業制度資金融資取扱状況

農業制度資金融資とは、農業の担い手が規模拡大や経営改善を図ろうとする場合や、新しい農業分野への進出を図る場合などに、必要な資金を長期かつ低利で利用できる融資制度です。

■主な農業制度資金

(単位：百万円)

項 目	資 金 の 概 要	平成 29 年 3月末残高	平成 29 年 9月末残高
農業近代化資金	農業経営の近代化に必要な農業用施設、農機具、長期運転資金等を国や県、市町の利子補給により、J Aが農業者に低利で融資する資金です。	76	58
農業経営関連資金	市町の農業金融制度で、農業者が農業生産資材の購入や施設を整備する資金を、J Aが市町より資金の預託を受け、低利で農業者に融資する資金です。	0	0
日本政策金融公庫資金	経営の合理化や経営規模の拡大を図るための資金を、受託金融機関であるJ A広島信連をとおして日本政策金融公庫よりJ Aが借入れし、農業者に長期かつ低利で融資する資金です。	-	-

□文化的・社会的貢献に関する事項

□地域とのふれあい

- 農業情報市場・農業祭や地域イベントへの協賛・後援を通じて地域との交流を深めています。
- 法務・税務相談会、資産税個人相談会、年金相談会、ローン相談会、相続セミナー会を開催するなど、各種相談に応じています。
- 健康講演会、介護予防活動やカルチャー教室をはじめ、ふれあい感謝祭などの催しを行い、元気・健康高齢者や地域の人々とのふれあいを深めています。
- 各支店に支店運営委員会を設置し、支店独自の活動で地域の活性化を目指しています。

□次世代とのふれあい

- 自然環境の大切さや農業の魅力、食の大切さを感じてもらうため「食農教育」の取り組みを行っています。「あぐりスクール」では、植え付けから収穫・調理まで一貫した活動を行っています。また、小学校の総合学習では、バケツ稲づくり、野菜づくりなどに協力するとともに、「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールを行っています。
- 学校給食への地元農産物の供給を通して、将来を担う子ども達に地域農業への関心を高める取り組みを行っています。
- 「ちゃぐりん」を活用して、親子で工作や料理をする「ちゃぐりんフェスタ」を開催しています。
- 交通事故のない地域を目指すため、子ども達の交通安全意識を高める書道・交通安全ポスターコンクールを行っています。

□農とのふれあい

- 新規就農者育成を目的として「農業塾」を開講し、講義、実習、視察研修を行い、いきがい農業から出荷農家の育成まで幅広い活動を行っています。
- 多様な担い手を対象とした、水稻・野菜の栽培講習会を開催しています。
- 地域の人々を「農」と結びつけるとともに、農地を有効活用するため「家庭菜園」を開設しています。